

C-75 衣服設計に関する研究(第2報) —女子中学生の身体比例について—
京都女大表政 ○福井弥生 山名信子 島山絹江 奥村 董
大志万八栄子 岡田節子

目的: 第1報にひき続き、本報では主として身体比例の把握を目的とした。

方法: 資料は、第1報と同一のもので1975年に計測した13才～15才までの京都女子中学生300名の計測値である。研究項目は、身体比例を把握するために関係のある、長径10項目、横径・矢状径10項目、算出項目など合計23項目である。これらの項目の身長に対する示数値について、1) 中学生の身体比例の特徴、2) 1966年京都地区計測の成人値との比較、3) 1966年計測の京都女子中学生の資料との比較、4) その他を試みた。

結果: 1) 中学生の身体比例は、3年間で著しい変化は認められないが、13・14才間で後胸高/身長・膝関節高/身長に、14・15才間には、下部胸囲高/身長・膝関節高/身長・陽骨棘高/身長・下肢長/身長に減少の有意差が認められ、これらの部位は、加齢と共に示数値が低くなる傾向がみられる。他の項目には顕著な変化は認められない。2) 1966年計測の成人値と比較すると、長径項目関係では成人よりも優位な比例の傾向がみられるが、横径・矢状径関係項目は、胸部横径・矢状径以外は、成人より低い示数値を示す。

頭身示数は、中学生6.8～6.9、成人6.9である。主な頭身線の通る部位は、成人では、2頭身目: 乳頭位、3.5頭身目: 腰圍少し上、中学生では、2頭身目: 乳頭位少し下、3.5頭身目: 腰圍線上である。3) 1966年計測京都女子中学生値と比較すると、腕付根高、股の高さの示数値は、今回の計測値が優位であるが、他項目には差はみられない。4) その他、次のような比例がみられる。全頭高 \div 前腕長 \div 足長 \div 下部胸囲横径、肘関節高 \div 胸高、肩峰幅 \div 全頭高 \times 1.5、上肢長 \div 全頭高 \times 3強であった。